

慈雲

18号

2011/6

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

<http://www.zuirenji.net/>

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



如是時間
經三七日
王食麩蜜
得聞法故
顏色和悦

【『觀經』の言葉】

「かくのごときの際の間、三七日を経るに、王麩蜜を食し、法を聞くことを得るがゆえに、顔色和悦なり。」

ビンバシヤラ王は幽閉されているにもかかわらず、夫人がひそかに食べ物運ぶのと、仏弟子が門番に見つかからないように飛んできて王の為に説法をしたおかげで三週間経った今でも体調もよく心も落ち着いていた。

イダイケ夫人はいつまでもこんな事が通用するとは思っていないし、仏弟子もアジャセを説得して幽閉をやめさせようなどという事はやらない。しかし、何かせずにはおれないのだ。

「ここには我々と何ら変わらない“人間”がいるだけである。」

【「正信偈」に学ぶ】

今回から「正信偈」しょうしんげを学びたいと思います。

「正信偈」は親鸞聖人がお作りになったもので、私たち真宗門徒にとつては最も馴染みのある御聖教です。すでに、そらんじている人も、ただ今練習中の人もありますが、いずれにしてもこの「正信偈」に親鸞聖人のすべてが込められているといえるでしょう。

「正信偈」は聖人の主著『顕浄土真実教行証文類』（教行信証）の中に入っているのですが、「正信偈」に先立ってその由来を明かす文が載っています。

ここをもつて知恩報徳のために宗師（曇鸞）の釈を披（ひら）きたるに言わく、「それ菩薩は仏に帰す。孝子の父母に帰し、忠臣の君后に帰して、動静已にあらず、出沒必ず由あるがごとし。恩を知りて徳を報ず、（中略）」と。已上

『真宗聖典』二〇三頁

意識 知恩報徳のために曇鸞大師の釈をいただいてみると、次のように説かれている。「菩薩が仏に帰依するのは、あたかも孝子が父母に帰服し、忠臣が主君に帰服するようなもので、立ち居振る舞いに私がなく、進退すべて仏意にのっとり、恩を知り徳に報いるのである。（中略）」と。已上

私がお念仏をいただいたのは、私に何らかの功績があつたからではない。私に先立って釈尊を始め、世々の先輩方が伝えてきてくださったのだ。私のところまで流れ来たつたものを本願の歴史といいますが、その歴史全体が私の信心のすべてである。そのほかに私が仏さまを信じるか信じないかは問題ではないのだ。親鸞聖人は自分の言葉ではなく、曇鸞大師の文を引いて自らの心を表わしている。

続いて親鸞聖人は、

しかれば大聖の真言に帰し、大祖の解釈に閱して、仏恩の深遠なるを信知して、正信念仏偈を作りて日わく、

意識 ゆえに釈尊の教えに帰依し、また三国の七高祖の論釈をひもとして、大悲の恩徳の深いことを知り、「正信偈」を作つて讃えるのである。

阿弥陀仏の本願を説いてくださった釈尊とそれを受けて次々と伝えてくださった三国七高祖の足跡を振り返り、その「恩（の深いこと）」を知つて徳に報いるために「この「正信偈」を作るのである。

「偈」は偈頌で歌のことです。口に出して讃嘆することです。大いに声に出してうたつてください。

これから少しずつ中味を学びますが、讃嘆しつつ歌うように学んでいきたいです。



【經典に見る譬え】

仏教には様々なたとえが使われます。難しい教えでもたとえを通すと理解しやすいのです。これを譬喩といっています。

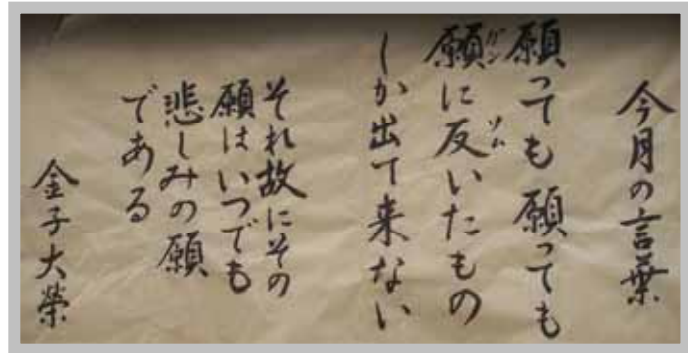
世尊、我世間を見るに、伊蘭子より伊蘭樹を生ず、伊蘭より梅檀樹を生ずるをば見ず。我今始めて伊蘭子より梅檀樹を生ずるを見る。

「伊蘭子」は、我が身これなり。「梅檀樹」は、すなわちこれ我が心、無根の信なり。

これは『涅槃経』の文です。それを親鸞聖人は『教行信証』に引用されています。

意識 その時、阿闍世王が世尊に申して云うのには、世尊よ、私は世間を見ますのに伊蘭という毒樹の種から伊蘭の毒樹がはえます。伊蘭の種から梅檀の樹がはえたのを見たことはありません。私は、今始めて伊蘭の種から梅檀の樹がはえるのを見ました。伊蘭の種というのは私のことです。梅檀の樹というのは、私の心に起こった無根の信をいうのです。(次回に続く)

【お寺の掲示版 六月】



願っても願っても願に反いたものしか出て来ない。

それ故にその願はいつでも悲しみの願である。

金子大榮

私たちが、ふだん「願」とか「願い」というとどんな事を言うのでしょうか。

「私がこうなりたい」と自分のことを願う場合もあれば、家族、身近な人に対して「幸せになって欲しい」と願うこともあるでしょう。今であれば、震災に遭われた方々が一刻も早く元の生活を取り戻されるようにと願うということがあ

そのように私たちはいろいろな場面いろいろな条件で色々なことを願います。しかし、その願いがいかにかに立派で善なる願いであっても人間が望む「願」というのは、100%純粋で100%真実なる願いというのはありえないのです。それを「雑毒の善」(毒混じりの善)と仏教ではきびしく指摘しています。

なぜなら人間は真実から顛倒した生きかた、虚偽(いつわり)なるものを真実と思い込むような生き方をしているからです。

そのような私たちに、仏さまは真実なる世界に気づいて欲しいと願ってくださるのです。

この言葉は金子先生の懺悔の言葉であり、それゆえにそのような自分を捨てず、いつでもそばに寄り添ってくださる仏さまを「悲しみの願」であると讃えておられるのです。

【お知らせ】

「平成二十三年度

山城第一組 教学講座」

が催されます。

テーマは「七高僧に学ぶ」です。

今までも山城第一組におきまして教学講座が催されてまいりましたが、今回は組内の御住職方がそれぞれ七高僧の一人を担当され、順番にご講義いただく講座です。

今までに無い試みで、身近なお坊さんの身近な言葉でお話いただけるのではないかと思っております。

また、瑞蓮寺御住職も第三回「曇鸞」を担当されますので、夜七時からという少し遅い時間ではありますが、お勤め帰りにでもおいで頂けたらと思います。

聴講は無料です。

詳しくは瑞蓮寺または慈雲会までお問い合わせ下さい。

七高僧に学ぶ

第一回 七月 五日(火)

「龍樹」 担当 寶蓮寺 佐々木 千佳

第二回 八月 三日(水)

「天親」 担当 乘誓寺 川口 観正

第三回 九月 六日(火)

「曇鸞」 担当 瑞蓮寺 浅井 仁麿

第四回 十月 五日(水)

「道綽」 担当 正林寺 大橋 靖

第五回 十一月 二日(水)

「善導」 担当 圓龍寺 佐々木 淳

第六回 十二月 7日(水)

「源信」 担当 新道寺 磯野 淳

平成二十四年

第七回 三月 七日(水)

「源空」 担当 延仁寺 中川 大地

時間 午後七時～九時

場所 京都教務所 二回大講堂

次回仏具のお磨きは

八月三日(水)午前八時半からです。

少し日にちが御座いますが、よろしくお願ひいたします。

【編集後記】

暑い日が続いておりますが、皆様お変わり御座いませんでしょうか。

本年も早、半分が過ぎ祇園祭の季節となつてまいりました。

今回から御住職の筆によります「正信偈しょうしんげに学ぶ」が始まりました。

私など、正信偈しょうしんげはよく耳に致しますが、本当に内容を理解しているかと問われると恥ずかしながら自信がありません。せっかくの機会ですので、改めて自分の理解を問い直してみたいと思っております。

長塩浩史

瑞蓮寺のホームページができました。皆様一度ご覧下さい。

<http://www.zui renji.net/>